

夫婦の【日本語交流活動】・「32年間」の歩み

大森和夫・大森弘子 (190-0031 東京都立川市砂川町 2-71-1-C621)

E-Mail=yuraumi@yahoo.co.jp URL=http://www.nihonwosiru.jp/

一・・「日本語教材」の作成と寄贈 平成元年～平成 29 年

- 【一】1989年3月～1997年3月まで8年間、「季刊誌『日本』」(30頁前後)を、33号まで、計約72万冊無料配布。国内の大学・日本語学校、中国を始め、タイ、インドネシア、韓国、フランス、イギリス、アメリカなど30数カ国の大学に寄贈。
- 【二】1995年に「季刊誌『日本』」を基に「日本語精読教材【日本】」(206頁)を作成、その後、「大学用。日本語教材【日本】」(上、下)、「MP3付【日本】」(上、下)、2014年作成の【新日本概況】まで6回改訂。2016年まで、中国などの大学に約7万冊寄贈。

◇『季刊誌【日本】』、『日本語教材【日本】』の作成と寄贈=79万4千冊

「デジタル日本語教材『【日本】という国』」を無料公開 平成 28 年～

◇2016年(平成28年)9月→◇2019年9月、2021年4月更新

世界の「日本語学習者」が、誰でも、「無料」で、「日本語」と「日本事情」が勉強できる！

【日本】という国 (ルビ付き・251頁) = <http://www.nihonwosiru.jp/>

◆ 2021年9月以降・更新予定

二・・「日本語作文コンクール」の開催 平成元年～令和 3 年

- 【一】1989年から1993年まで、「留学生対象の《日本語作文コンクール》」を、計5回主催。
応募者総数=3,121人。
- 【二】1993年から2014年まで、中国の大学生を対象に《日本語作文コンクール》を、計16回主催。応募者総数2万2,945人。
- 【三】「世界の日本語学習者」を対象にした《日本語作文コンクール》を主催。
 - ◇2016年～2017年「第一回」(応募者数=54カ国・地域から5,141人)
 - ◇2018年～2019年「第二回」(応募者数=62カ国・地域から6,793人)
 - ◇2019年～2020年「第三回」(応募者数=66カ国・地域から9,086人)
 - ◇2020年～2021年「第四回」(応募者数=75カ国・地域から4,013人・9022句)

◇計25回の《日本語作文コンクール》の応募者総数=5万1,099人(75カ国・地域)

○2020年9月、「ユニークな『日本文化論』」を朝日新聞出版から出版。

「留学生、中国の大学生・院生、世界の日本語学習者」を対象に行った24回の《日本語作文コンクール》の入賞作文から「日本人に読んでもらいたい作文」112編を選びました。

- 【四】2020年～2021年=「25回目の《日本語作文コンクール》」として、「第四回・世界の日本語学習者」・「【俳句】コンテスト」を実施
・応募総数(75カ国・地域の4,013人から9,022句) HP: <http://www.nihonwosiru.jp/>

三・・「日中友好アンケート調査」 平成 11 年～平成 27 年

◇「日中友好」のアンケート調査を4回実施。

1999年から2015年3月まで、中国の大学生(日本語科)を対象に、「日中友好に関するアンケート調査」を計4回実施。80～172大学の計3万9,225人が回答。

【大森和夫】1940年生まれ。早稲田大学政治経済学部政治学科卒。朝日新聞社記者(大分支局、山口支局、福岡総局、政治部、編集委員など)を経て、1989年(平成元年)に、妻と国際交流研究所を開設し、留学生との『日本語交流活動』を開始。

【大森弘子】1940年生まれ。京都女子短期大学家政学部卒。『日本語教材』各版の編集長。

☆令和元年(2019年)12月=文化庁長官表彰(国際文化交流・多文化共生社会の実現に貢献)